

施策体系シート(行政経営Bシート)

作成者	組織	文化財課	職	課長	氏名	田村 彰英
評価者	組織	文化財課		課長		山下 幸則

施策	施策の目標	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		評価
					(年度)	(年度)	
施策1	文化財の保存と活用	1 国・県指定文化財等件数	件	850 (R7)	839 (H30)	846 (R1)	B
		2 輪島漆芸技術研修所卒業生(累計)	人	875 (R1)	864 (H30)	878 (R1)	
		3 埋蔵文化財センター入館者数(年間)	人	19,690 (R4)	19,349 (H30)	18,410 (R1)	

施策の目標達成に向けて重点的に取り組むべき課題					課題に対する主な取り組み					評価		
施策	課題	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		事務事業	対象	予算 (千円)	決算 (千円)	事業の有効性	今後の方向性
				(年度)	(年度)	(年度)						
施策1	課題1	有形文化財等の保存と活用	件	850 (R7)	839 (H30)	846 (R1)	有形文化財等保存・活用事業 ※1	県民・所有者等	105,631	97,139	B	継続
	課題2	埋蔵文化財発掘調査の促進と公開・活用	人	19,690 (R4)	19,349 (H30)	18,410 (R1)	埋蔵文化財発掘調査促進・公開・活用事業 ※2	県民	1,316,825	913,115	B	継続

※1 内訳

有形文化財保存事業費	62,245	55,826
伝統的建造物群保存地区保存事業費	10,670	10,651
史跡名勝天然記念物保存事業費	25,397	23,088
ふるさと文化財調査推進事業費	1,080	764
世界遺産推進事業費	4,949	4,696
いしかわ歴史遺産推進事業費	1,290	2,114

※2 内訳

県営ほ場整備関連等緊急発掘調査事業費	4,250	4,442
埋蔵文化財緊急発掘調査受託事業費	1,302,604	898,702
埋蔵文化財緊急発掘調査費	4,343	4,343
古代ふれあい体験事業費	5,628	5,628

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	有形文化財等保存・活用事業	事業開始年度	H8	事業終了予定年度		
		根拠法令	文化財保護法等			
		計画等				

作	組	織	文化財課		
成	職	氏名	主幹 夏畑 昌幸		
者	電話番号	076 - 225 - 1841 内線 5623			

事業の背景・目的
 本県の歴史・文化を反映した有形文化財等の適切な保存・整備及び積極的な公開・活用を図る。

事業の概要

- 1 有形文化財(建造物、美術工芸品)の保存と活用
 - (1) 老朽化の著しい建造物及び美術工芸品についての保存修理事業
 - (2) 有形文化財の積極的な公開・活用の促進
- 2 記念物(史跡・名勝・天然記念物)の保存と活用
 - (1) 損傷の著しい記念物についての保存修理事業
 - (2) 史跡等の公有地化や復元整備事業による積極的な整備・活用の促進
- 3 文化財に係る各種調査の推進及び普及啓発
 - (1) 文化財の価値を明らかにするための各種調査事業
 - (2) 調査成果に基づく文化財指定の促進
 - (3) 世界遺産登録推進等の普及啓発活動への助成
- 4 文化財の活用による地域活性化
 - (1) いしかわ歴史遺産の認定による文化財の地域活性化への活用の推進

施策・課題の状況						
施策	文化財の保存と活用				評価	B
課題	有形文化財等の保存と活用					
	指標	国・県指定文化財等件数			単位	件
	目標値	現状値				
	令和7年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	850	806	817	835	839	846

事業費						
	(単位:千円)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業費	予算	71,269	73,606	109,062	101,717	105,631
	決算	70,686	68,640	108,555	97,999	97,139
一般財源	予算	71,269	73,606	109,062	101,717	105,631
	決算	70,686	68,640	108,555	97,999	97,139
事業費累計		2,967,295	3,035,935	3,144,490	3,242,489	3,339,628

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	文化財に係る各種調査の推進により、国・県指定文化財等の件数は増加している。(R1:7件) また、老朽化の著しい建造物や美術工芸品の保存修理、史跡等の公有地化や復元整備、いしかわ歴史遺産の認定(R1認定1件 累計14件)により、文化財の保存・活用を進めた。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	引き続き、本県の個性豊かな歴史と文化を保存・継承し、内外に発信するため、文化財の掘り起しに努め、文化財指定を進める。 また、建造物や美術工芸品等の保存修理を推進するため、文化財パトロールなどにより、文化財の保存管理状況を把握し、保存修理事業の計画的な実施に努める。

(単位:千円)

事業内容	事業実施主体	事業費		
		平成29年度	平成30年度	令和元年度
有形文化財保存事業費	所有者	62,590	58,502	55,826
伝統的建造物群保存地区保存事業費	所有者	12,768	11,908	10,651
史跡名勝天然記念物保存事業費	県・市町・所有者	23,924	18,955	23,088
ふるさと文化財調査推進事業費	市町	1,050	1,200	764
世界遺産推進事業費	キャンペーン推進会議他	5,459	4,986	4,696
いしかわ歴史遺産推進事業費	石川県	2,764	2,448	2,114
合計		108,555	97,999	97,139

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	埋蔵文化財発掘調査促進・公開・活用事業	事業開始年度	H10	事業終了予定年度		
		根拠法令	文化財保護法等			
		計画等				

作成者	組織	文化財課			
	職・氏名	課長補佐 端 猛			
	電話番号	076 - 225 - 1842 内線 5627			

事業の背景・目的
埋蔵文化財の発掘調査等を促進し、適切な保存に努め、調査成果等の積極的な公開・活用を図る。

事業の概要

- 1 埋蔵文化財分布調査等の実施
 - (1) 開発事業等に伴う埋蔵文化財分布調査等(資料調査・現地踏査・試掘調査)の実施
 - (2) 現状保存を目的とする範囲・内容・性格等把握のための埋蔵文化財確認調査等の実施
- 2 開発事業等に伴う埋蔵文化財発掘調査等の実施
 - (1) 農業基盤整備事業等に伴う農家負担分に係る発掘調査等の実施
 - (2) 国等の機関が行う開発事業等に伴う発掘調査等の実施
 - (3) 個人住宅建設等に伴う発掘調査等の実施
- 3 埋蔵文化財保存・公開・活用事業の実施
 - (1) 埋蔵文化財の保存・公開に係る出土品保存処理の実施
 - (2) 埋蔵文化財の公開・活用事業の実施

(単位:千円)

事業内容	事業実施主体	事業費		
		平成29年度	平成30年度	令和元年度
県営ほ場整備関連等緊急発掘調査事業 ・埋蔵文化財分布調査等の実施 ・埋蔵文化財発掘調査等の実施	石川県	4,942	4,250	4,442
埋蔵文化財緊急発掘調査受託事業 ・埋蔵文化財発掘調査等の実施	石川県	1,335,674	824,790	898,702
埋蔵文化財保存事業 ・埋蔵文化財分布調査等の実施 ・埋蔵文化財確認調査等の実施 ・埋蔵文化財発掘調査等の実施 ・出土品保存処理の実施	市町	4,343	4,343	4,343
古代ふれあい体験事業 ・埋蔵文化財周知・紹介事業の実施 ・埋蔵文化財公開活用事業の実施	石川県	4,128	5,128	5,628
合計		1,349,087	838,511	913,115

施策・課題の状況						
施策	文化財の保存と活用				評価	B
課題	埋蔵文化財発掘調査の促進と公開・活用					
	指標	埋蔵文化財センター入館者数(年間)			単位	人
	目標値	現状値				
	令和4年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	19,690	18,469	19,855	18,743	19,349	18,410

事業費						
(単位:千円)		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業費	予算	627,898	3,589,535	1,325,540	1,116,034	1,316,825
	決算	550,764	2,047,361	1,349,087	838,511	913,115
一般	予算	5,967	8,279	8,711	9,032	9,282
財源	決算	8,443	8,094	8,974	9,032	9,378
事業費累計		8,760,189	10,807,550	12,156,637	12,995,148	13,908,263

評価					
項目	評価	左記の評価の理由			
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	埋蔵文化財調査については、国土交通省道路・河川事業に伴う発掘調査などの事業者の発掘要望に全て対応できた。 また、埋蔵文化財センターの入館者数について、令和元年度は18,410人と、前年度に比して減少したものの、発掘現場の公開や各種古代体験・講演会等の普及啓発により、埋蔵文化財の公開・活用が図られている。			
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)		継続	引き続き、開発事業等に伴う発掘調査を促進するとともに、歴史・文化のシンボルとしての埋蔵文化財の積極的な保存・公開・活用を図るため、発掘成果等を公開するほか、県内の埋蔵文化財関連施設や博物館等とも連携しながら、埋蔵文化財センターの利用促進に向け普及啓発に取り組む。		